社会科（公民的分野）学習指導案

[redacted]

3　主　題　1　単元名　　第１章　わたしたちの生活と現代社会
　　第１節　現代社会とわたしたちの生活　～貧困問題～

4　主題について

この単元は、中学校学習指導要領の公民的分野の「内容（１）私たちと現代社会（ア）「私たちが生きる現代社会と文化」にあたる。この中項目は、現代社会の特色を理解させ、これから始める公民的分野の学習に対して生徒の関心を高めることを主なねらいとしている。ここで現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化とともに貧困問題を取り上げることにした。例えば本時で扱う貧困問題については、先進国である日本ではすでに解決ずみの問題とされ、人々の関心が向かわずにきた。しかし、2006年にマスコミが「貧困」の実態を報道しはじめたのが転機となり、日本社会の大きな問題として認識されはじめた。ただ、「貧困」が社会問題となるのが遅れたこともあり、あるいは悪質なデマもあり、世間では「貧困」は自分の責任という誤解も生じている。誤解の多い現状から出発しながら、「貧困」の実態や背景がわかるように、そして、将来的には「貧困」社会をなくしていくことができるような能力と態度を育てるために適した単元といえる。

生徒たちは、全体的に意欲的な姿勢で学習に取り組んでいる。また、ＮＲＴ検査の学級平均偏差値は、全国平均を上回っており、全体としてみると知識としては一定の定着が図られている様子である。しかし、授業中の発言は短絡的なものが多く、学習したことが一つ一つの用語の理解に止まり、社会的事象や諸問題について自分の考えをもてない、あるいはもてたとしても自分の考えを発表することに終始している。この点を授業者の授業構成や発問と合わせ、課題点としてとらえている。

本単元の指導にあたり、これらの現代社会の特色をとらえさせたり、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付かせる際には、地理的分野、歴史的分野などとの関連を図ったり、写真や統計資料を用いるなどの工夫をしていきたい。例えば、高度経済成長のころと現在の情報通信機器の写真とを比較させたり、戦前、戦後、現代の人口ピラミッドを比較し、その変化に伴い社会生活がどのように変化したかをまとめたりするなどして、現代日本の特色を生徒が理解できるよう配慮していきたい。また、他者とのかかわり合いの場面も設定し、様々な視点で事象をとらえるとともに、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度の育成につながるような授業づくりを目指したい。

5　指導と評価の計画（別紙）

6　本時の達成目標

社会的な事象への関心・意欲・態度	経済大国である日本に貧困で苦しむ人が増えてきている理由を、意欲的に調べようとしている。
社会的な思考・判断・表現	経済大国である日本に貧困で苦しむ人が増えてきた理由を、多面的に考察し、説明している。 〈生徒の記述例〉 ・非正規労働者の割合が増えている。非正規労働者は正社員に比べ賃金が低く、貧困になりやすい。 ・企業は経費を安くおさえるために非正規労働者の採用を増やしている。
資料活用の技能	経済大国である日本に貧困で苦しむ人が増えてきている背景を、「雇用形態別の労働者数の推移」や「正社員と非正規社員の年収比較」などの資料から読み取っている。
社会的事象についての知識・理解	経済大国である日本に貧困で苦しむ人が増えてきている原因について理解している。

7　本時の指導構想

（1）「教えて考えさせる授業」にかかわって

本時は、評価基準の「経済大国である日本に貧困で苦しむ人が増えてきた理由を、多面的に考察し、説明している」を主にねらったものである。

①【説明する】…世界有数の経済力をもつ日本は、国内総生産で現在世界３位である。しかし、その表面的な豊かさとは裏腹に社会のなかで生きてくのが困難な状態にある国民の割合がＯＥＣＤ加盟の先進国 30 数カ国中ワースト４で相対的貧困率の高い国であることを説明する。

②【理解の確認】…提示した資料から、アフリカや東南アジアをはじめとした国々に絶対的貧困国が多いこと、また、経済的に豊かな国であるはずの日本がＯＥＣＤ加盟国中ワースト４位の相対的貧困国であることを説明しているかに気をつけ、不十分な場合は再確認する。

③【理解深化】… 相対的貧困率が上昇している理由を多面的に考察させるために、「なぜ、先進国の日本で貧困に苦しむ人が多いのか？」という課題に取り組ませる。その際、「各所得者層の割合の変化」の様子について資料から読み取らせ 、1990 年代のはじめごろから中所得者層の割合が減り、反対に年収 2000 万円以上の高所得者層と低所得者層の割合が増加し、国民の間に所得格差が広がってきていることをとらえさせる。その上で所得格差をもたらした「雇用・賃金体系」の変化とその背景について、資料をもとに、読み取っていく。また、それらの国策や企業の経営戦略が国際競争を勝ち残っていくために求められていることにも気づかせる。最後に読み取ったことを関連づけて考察し、まとめさせることで「説明する」でおさえた内容を、より深めて理解させたい。

④【自己評価活動】…他国に比べ、豊かな生活を過ごしているという日本国民の生活についてのとらえが、学習を通して、相対的貧困に苦しんでいる人々が多いことを知り変容したこと、また、その理由として様々な側面があることについて理解が深まったことを記述してほしい。この問題の解決策について記述されているとよい。

（2）「表現すること」にかかわって

本時で大切にしたい「表現する」活動は次の２点である。１点目は、「理解の確認」段階の生徒どうしが説明し合う活動で、日本の所得層が変化し、生活に苦しむ国民が増え続けていることをおさえる。２点目は、「理解深化」段階で資料から読み取った情報や事実を比較・関連づけながら読み取り、他者の意見も参考にしながら自己の考えを表現させたい。

8　本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法	教材・教具等
説明する 10分	1 写真から、世界における産業の発達した地域をとらえさせる。 2　日本に注目してとらえる。 3　資料から先進国の中での相対的貧困率ではワースト4であることを知る。 4　学習課題を把握する。 **なぜ、豊かなはずの日本に「貧困」に苦しむ人が多いのか？**	・地域名や国名を具体的を読み取らせる。 ・世界第3位であることを確認する。 ・先進国３０か国中ワースト4位であることをとらえさせる。		写真 ・「産業の発達した地域」 ・「世界各国のＧＮＩ」 資料 ・「相対的貧困率」
理解の確認 5分	5　１、２の資料から、読み取ったことをとなりの生徒への説明、全体での確認をとおして理解の確認をする。	・ＧＮＩ世界第 3 位の日本が、先進国中ワースト4位の相対的貧困国であることを説明しているかをおさえる。		
理解深化 25分	6　課題について予想する。 7　主題図やグラフ、資料から課題について読み取り発表する。 8　学習課題を振り返り、本時のまとめを確認する。	・自分なりの予想を立て発表させる。 ・提示された資料を関連づけながら必要な情報や事実を読み取らせる。 ・読み取った情報や事実を比較・関連づけながら考え、他者の意見も参考にしながら自己の考えを深めさせる。 ・読み取ったことについて根拠を示しながら発表させる。 ・学習活動7の内容を整理し、多面的にまとめさせる。	7【社会的な思考・判断・表現】 経済大国である日本に貧困で苦しむ人が増えてきた理由を、多面的に考察し、説明している。 〈記述・発言内容〉 A:複数の視点を関連づけて思考している。 C:貧困に苦しむ人々が置かれた苦しい状況を確認する。	資料 ・「各所得者層の割合の変化」 ・「雇用形態別の労働者数」 ・「正社員と非正規社員との賃金・労働条件の差」 ・「男女正社員比率、賃金格差」 ・「世界の生活費ランキング」 ・「外国人労働者数」 ・「アジア各国の月額賃金比較」 ・「日本企業の海外進出数の推移」 ・「非正規社員の選択理由・採用理由」 ・「ワーキングプア」 ・「生活保護世帯数の推移」
自己評価活動 10分	9　自己評価をする。 ・豊かな生活をする人がいる一方で、生活に苦しむ国民が増えていることを知った。すべての日本人が安心して暮らせるようなしくみをつくっていきたい。 ・同じ仕事をしたら、同じ賃金とするなど、豊かさが偏らないようなしくみづくりを考えていかなけらばならない。			

指導と評価の計画

３年　社　会	題材名　第１章　わたしたちの生活と現代社会　１　現代社会とわたしたちの生活	総時間　４時間扱い

学習指導要領の指導事項	単元の目標
（１）　私たちが生きる現代社会と文化 ア　現代社会の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させるとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付かせる。	現代社会の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させるとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付くことができる。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
グローバル化、情報化、少子高齢化などの現代社会の特色に関心を持ち、それらの影響や関連性などについて意欲的に追究している。	グローバル化、情報化、少子高齢化などが政治、経済、国際関係に影響を与えていることについて、様々な資料をもとに、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	様々な写真や統計資料などから、現代社会の特色や社会の変容などを適切に読み取っている。	現代社会の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などがあることを理解し、その知識を身につけている。

時	主な学習活動	おおむね満足(B)	十分満足(A)
１	○情報化 情報化の進展がわたしたちの社会や生活に変化をもたらしたことに気付く。	**関①**　現代日本の社会の特色について関心を持ち、意欲的に考えようとしている。 **思①**　情報化がもたらす便利さと問題点について多面的・多角的に考察している。	情報社会にどのように対応していけばよいのか考えている。
２	○少子高齢化 写真や統計資料をもとに、少子高齢社会では何が課題になっているかに気付く。 少子高齢社会がもたらす課題解決に向けてどのような取り組みが必要なのか考える。	**技①**　少子高齢化に伴う近年の社会の変化（課題）を統計資料などの推移から読み取っている。 **思①**　課題の解決に向けてどのような取り組みが必要か考察している。	将来について予測している。 多面的・多角的な視点で考えている 。
３	○グローバル化 グローバル化がみられることを理解する。 日本の貿易や産業の特色を通して、グローバル化がわたしたちの社会や生活に影響をもたらしたことに気付く。	**知①**　グローバル化とはどのようなことか理解している。 **思①**　グローバル化の影響について多面的・多角的に考察し、自分のことばでまとめている。	人・モノ・金・情報など様々な分野でグローバル化の進展がみられることを理解している。 自分たちがその中で、どのように生きていけばよいのかについても考えている。
４ 本 時	○格差社会 雇用をめぐる環境の変化とその影響について、資料の読み取りを通して考察する。	**思①**　経済大国である日本に貧困で苦しむ人が増えてきた理由を、多面的に考察し、説明している。	複数の資料を関連づけて思考している。

評　価　事　例

４　経済大国である日本に貧困に苦しむ人が増えてきた理由を、考察する場面。（思①　学習シート）

資料をもとに、経済大国である日本に貧困で苦しむ人々が増えてきている理由を、多角的に考察し、説明している。

■おおむね満足（B）

・ここ10年ほどの間に中所得者層が減り、低所得者層が大幅に増え、生活苦に陥っている。
・非正規労働者の割合が増えている。非正規労働者は正社員に比べ、賃金が低く、貧困になりやすい。
・女性は非正規労働者の割合が高く、賃金が各年齢層ともに低く、一人暮らしや一人親の場合は特に貧困率が高い。
・企業は経費を安くおさえるために非正規労働者の採用を増やして いる。
・正社員と非正規社員の賃金差は30～40代で大きく、生活の苦しさにつながっている。
・日本は世界有数に生活費がかかる国である。

資料をもとに、多角的に考察し、説明している。

■十分満足（A）

・経費を減らすために,非正規労働者や外国人労働者の採用、海外進出を増やしている。また、非正規労働者の賃金は低く、特に30～40代での正規社員とのひらきは大きく生活の苦しさにつながっている。また、 世界一生活費が生活費が高いので賃金が減ると生活が苦しくなる。

複数の資料を関連づけて思考している。

【Ｃ：指導の手だて】

資料から考察し、説明することが難しい生徒に対しては、貧困で苦しむ人々が置かれた苦しい状況を確認しながら学習を支援する。